

久御山町中央公民館あり方検討委員会 意見書

目 次

1	現在の利用状況等について	1
	（1）会議室等の利用状況について	
	（2）他施設の代替利用の可能性について	
2	中央公民館のあり方（建物の考え方）検討	5
	（1）今後も必要と考えられる機能（設備や規模）	
	（2）建物の考え方について	
3	現在のホール利用について	9
4	今後に向けて（提言）	10
参考	住民・文化サークルアンケート結果にみる方向性	12
	久御山町中央公民館あり方検討委員会 委員名簿・審議経過	16

平成 30 年 3 月

久御山町中央公民館あり方検討委員会

1 中央公民館の現在の利用状況等について

当中央公民館あり方検討委員会では、中央公民館の建物のあり方検討を進めるに当たって、まずは会議室をはじめ音楽室や和室等各部屋の必要性を把握するため、現在の中央公民館の利用状況の確認を行いました。

そして、今後においては、施設の耐震改修工事または施設廃止等により、中央公民館の建物が利用できない場合も想定されるため、町その他施設を利用することで当該利用が実施可能かどうか、代替利用の可能性について検討を行いました。

なお、中央公民館は、指定管理者制度※により（公財）久御山町文化スポーツ事業団が管理・運営しており、公益目的事業として公民館講座等の住民の自主的な学習活動及び地域交流活動を支援する事業と、収益事業として施設貸与事業を行っていますが、以下の利用状況については、これらすべての利用を含めて整理・検討しています。

(1) 会議室等の利用状況について

① 稼働状況について

- 中央公民館の利用（予約）については、午前・午後・夜間の3区分により行われており、各部屋の定員と年間の稼働率は次のとおりです。（詳細は別添）

《中央公民館の各部屋の稼働率（平成28年度）》

部 屋	定員(人)	3区分の 利用枠	3区分の 利用可能枠	稼働率※	備考
ホール	690	181	927	20%	
教養室1号	24	181	927	20%	
教養室2号	18	191	927	21%	
教養室3号	30	250	927	27%	
会議室1号	36	316	927	34%	・ 一体利用 (135人)可能
会議室2号	45	204	927	22%	
研修室1号	54	255	927	28%	
研修室2号	15	234	927	25%	
和室1号	18	158	927	17%	
和室2号	18	156	927	17%	
料理実習室	42	264	927	28%	
音楽室	50	308	927	33%	

※ 水曜日、12月28日～1月4日は休館。

※ 稼働率は、3区分（午前・午後・夜間）の1年間の利用可能枠を利用された枠から算出したもの。

※ 指定管理者制度… 公の施設について、民間事業者等が有するノウハウを活用することにより、住民サービスの質の向上を図っていくことで、施設の設置目的を効果的に達成するための制度。

② 利用内容・利用者について

ア ホール

- ・ ホールについては、年間 70 件前後の利用で、主に町または教育委員会関係や、公的な団体が利用しており、利用者は約 1 万 9 千人（平成 28 年度）あります。
- ・ 町等の利用内容は、文化祭をはじめ、成人式、敬老会、戦没者追悼式、いきがい大学、子ども音楽会、中学校合唱コンクールなどです。公的な団体の利用では、社会福祉協議会の福祉まつりやシニアクラブの文化祭などがあります。
- ・ 中央公民館の事業としては、音楽フェスティバルやくみやまファミリーシアターなどを実施しています。
- ・ 文化サークルでは、音楽系サークルが演奏会を開催しています。
- ・ 企業等一般では、年間数件程度ですが、総会等で利用しています。

イ 教養室・会議室・研修室

- ・ 公民館講座では、くみやま歴史講座や染め物教室などを実施しています。
- ・ 文化サークルでは、俳句や絵画、写真など 13 サークルが利用しています。
- ・ 町および企業等一般の団体の利用では、2 部屋ないし 3 部屋をつなげて大会議室形式とされるのが特徴です。

ウ 料理実習室

- ・ 公民館講座では、季節の料理教室や男の料理教室などを実施しています。
- ・ 文化サークルでは、2 サークルが利用しています。
- ・ 公的な団体では、町青少年健全育成協議会がこども広場で販売する食料の調理や、町体育協会がくみやまマラソンで振る舞う豚汁の調理で利用しています。

エ 音楽室

- ・ 公民館講座では、ジュニアコーラス教室やレトロ音楽教室を実施しています。
- ・ 文化サークルでは、5 サークルが利用しています。

オ 和室

- ・ 公民館講座では、着物や浴衣の着付け教室を実施しています。
- ・ 文化サークルでは、茶道にかかる 1 サークルが利用しています。
- ・ 町の利用では、談笑で和んでもらうことを目的としたこころのサロンを実施しています。
- ・ 各種大会開催時には、来賓控え室や更衣室として利用しています。

(2) 町の他施設の代替利用の可能性について

ア ホール（定員 690 人）

- ・ 同じ規模・設備のホールは町内にはありませんが、ゆうホールの交流ホール（定員 220 人・客席可動式）や役場庁舎 5 階のコンベンションホール（定員 210 人）、体育館のメインアリーナ（定員 500 人・観覧席 184 人）などの代替場所が想定できません。
- ・ ホールの設備は、舞台装置があり楽器演奏も可能ですが、町の他施設ではそれら設備を有するところはなく、ゆうホールの交流ホールでも楽器演奏は不可（ピアノ伴奏程度のみ可能）とされています。
- ・ 利用内容は、町主催事業など主に行政関係が多いところですが、その代替手法による実施は、町において検討されています。当該検討では、代替場所として総合体育館やゆうホール、役場コンベンションホール等を想定されていますが、文化祭については舞台発表・出品・出店と規模が大きく課題が大きいとされています。（詳細は別添）
- ・ 文化祭については、開催日までの各サークルによる会場準備をはじめ大きな会場での 1 週間ほどの利用となるため、他施設で同規模での実施が可能かどうか、駐車場の確保できるかどうか等について課題があると考えられます。
- ・ 現状、中央公民館は役場庁舎の隣りでもあり、その駐車場は職員分も含めれば約 210 台の駐車が可能で、町の施設としては最大規模の駐車場があります。そのため、ホール関係事業の代替については、他の場所で実施する場合は、駐車場の確保・交通手段の確保が課題です。
- ・ 代替場所として、ゆうホールや総合体育館の他にも、小中学校の体育館も検討対象になると考えられます。

イ 教養室・会議室・研修室

- ・ 中央公民館では、会議室関係については、教養室 1・2・3 号、会議室 1・2 号、研修室 1・2 号と、計 7 部屋有しているところですが、町の他施設の会議室等の空き状況から、中央公民館の利用者が利用できる余裕があるかどうかの確認・検討を行いました。（詳細は別添）
- ・ なお、現在の会議室 1 号・2 号、研修室 1 号は一体利用が可能で、その際の定員は 135 人です。
- ・ 検討により、利用の多くない月（例えば 4 月）については、利用者数だけで見た場合、ゆうホールや体育館などの社会教育施設で利用者を吸収できるという試算結果となりました。しかし、利用の多い文化祭前後（10 月・11 月）や 1 月については、ゆうホールや体育館などの社会教育施設だけでは中央公民館の利用者を吸収できず、役場庁舎の会議室等他所管の施設も考慮すれば吸収できるという結果となりました。単純に、月単位・利用者数という視点で見た場合、町全体の施設で考えれば、中央公民館が利用できなくなっても、その利用は吸収・賄うことが出来ると考えられます。
- ・ なお、日単位で見た場合は、会議室の定員から、同じ日では振り替えできない場合もあります。また、施設が変わることで施設使用料が変わることも懸念されます。

- ・ さらに、中央公民館の利用では、絵画関係の文化サークルなど創作活動を行う利用もあり、単純に他施設の会議室等で同様の利用が出来るかどうかは、個別に検討が必要な面もあると考えられます。また、ゆうホールには創作活動室がありますが、ゆうホールの事業や、既に複数の文化サークルが利用しており、新たな利用は難しい状況にあります。加えて、実施場所が変わることにより、交通手段が不便になることも考えられます。
- ・ 使用している団体別では、全体的に行政関係の利用は多く、特に文化祭前は行政（町）が全室・長期間おさえています。団体別で利用の優先を考慮するのであれば、まずは文化サークル、そして、町民、企業関係と考えられます。
- ・ 企業の利用については、貸し館としての利用であり、他施設としてクロスピアくみやまや商工会の商工会館もあり、上手く町内の施設で分散して利用していくことが可能と考えられます。

ウ 料理実習室（定員 42 人）

- ・ 料理実習室については、役場庁舎隣の保健センター内にあり、役場主催の事業については、町の検討により保健センターで実施可能とされています。しかし、保健センターの調理実習室は定員約 20 人程度の規模であるため、利用人数の面から利用が制限されることは想定され、文化サークルの意見でも手狭であるとされています。

エ 音楽室（定員 50 人）

- ・ 音楽室については、同様の施設は町内に有しません。
- ・ 文化サークルからは、現在の大きさの 8 割程度までであれば、音の反響面を考慮しても、縮小可能という意見です。
- ・ 小中学校の音楽室は、中央公民館ほどの防音設備は有しませんが、利用内容によっては、検討対象になると考えられます。また、学校施設内の利用にかかる構造的な検討も必要です。

オ 和室 1, 2（定員 18 人, 18 人）

- ・ 公民館講座の着物・浴衣着付け教室では、運営に必要なスペースとして、現状の広さ（間仕切れる状態で 2 部屋）が必要という意見があります。
- ・ 茶道サークルからも、現行通り、襖で仕切れるしつらえで 2 部屋必要という意見があります。
- ・ 和室については、社会教育施設ではゆうホール内にありますが、部屋面積が小さいところです。
- ・ 高齢者福祉施設としては、老人福祉センター荒見苑に、大広間や教養室（22 畳）として畳の部屋を有しています。

《（参考）他施設の稼働率（平成 28 年度）》

施設	部屋	定員(人)	3区分の 利用枠	3区分の 利用可能枠	稼働率	備考
ゆうホール	交流ホール	220	248	918	27%	・月曜休館
	ボランティアルーム	16	363	918	40%	
	ミーティングルーム	24	236	918	26%	
体育館	会議室 1	18	188	927	20%	・水曜休館
	会議室 2	18	191	927	21%	
	ミーティングルーム	8	95	927	10%	
役場庁舎	会議室 51 (コンベンションホール)	120	383	1,077	36%	
	会議室 52	54	350	1,077	32%	
	会議室 53	36	367	1,077	34%	
	特別会議室 1・2	90	291	729	40%	※

※ 役場庁舎特別会議室は一般利用なし・土日利用なし

2 中央公民館のあり方（建物の考え方）検討

中央公民館については、平成 25 年度に実施された耐震診断結果や施設の老朽化から何らかの対応が必要であり、今後、町において方針決定されることと思われませんが、当委員会においては、今後の中央公民館のあり方（建物の考え方）について、住民アンケートや文化サークルアンケートの結果や現在の利用状況等を踏まえ、今後も必要と考えられる機能を検討し、その上で想定される 4 つの考え方について、それぞれの利点と留意すべき事項を整理することとしました。

（1）今後も必要と考えられる機能（設備・規模）

先の中央公民館の利用状況や他施設の代替利用の検討から、中央公民館のあり方（建物の考え方）検討を進めるに当たっての前提条件として、当委員会では、今後も必要と考えられる機能（設備や規模）を次のとおり整理しました。

ア ホール

- ・ ホールについては、町主催事業の検討資料では、文化祭と子ども音楽会・中学校合唱コンクールを除き、利用人数は 300～400 人規模でよいとされます。
- ・ 住民アンケートや文化サークルアンケートでも、自由記述欄において 400 人規模のホールが必要との意見が複数ありました。
- ・ 今後の事業の実施方法にもよりますが、音響設備や舞台設備があるホールは必要と考えられます（民間施設の利用含む）。
- ・ ホールと併せて、駐車場の確保と交通手段の検討は必要です。

イ 教養室・会議室・研修室

- ・ 講義や研修、会議等の利用については、他施設で運用により代替可能と考えられます。
- ・ 絵画や陶芸など創作活動的な利用が可能な部屋は必要と考えられます。

ウ 料理実習室

- ・ 料理実習室は、他施設（保健センター）にあり運用により代替可能と考えられますが、規模が小さいこともあり、出来ることなら現状規模が望ましいです。

エ 音楽室

- ・ 合唱をはじめ演奏活動（アンプ等利用）が可能な防音設備を有する部屋は必要です。

オ 和室

- ・ 和室は、ゆうホールをはじめ他施設（教育施設含む）にあり代替可能と考えられますが、出来ることなら現状規模が望ましいです。

<今後も必要と考えられる機能>

機 能	備 考（設備・規模）
ホール	定員 300～400 人規模・舞台設備・音響設備（演奏関係が可能） 駐車場の確保
料理実習室	現状と同規模が望ましい
音楽室	防音設備を有する部屋
和室	現状と同規模が望ましい
創作活動的な利用	絵画や陶芸などの利用が可能な部屋

（２）建物の考え方について

中央公民館の建物の今後の考え方については、耐震に係る対応が必要なこと、特に重要な機能としてのホールやその他音楽室等特別な機能に関する事、町全体の状況から施設の廃止という考え方、という大きな視点に着目し、次の４つの考え方を想定し、それぞれの利点と留意すべき事項を検討しました。

- ① 現状維持・耐震改修
- ② 減築・耐震改修
- ③ 適切な規模で建替え
- ④ 施設廃止（機能移転）

① 現状維持・耐震改修

＜建物の考え方＞

※ 現在の建物を、現状維持したまま利用していくこととし、その利用の安全性確保のため、耐震改修を行う。

	利 点	留意すべき事項
施 設	<ul style="list-style-type: none"> 耐震基準は満たす。 そのままの姿で建物が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> 耐震改修費用が必要。 稼働率は全体的にそれほど高くないが、規模はそのままなので維持管理経費は今までどおり必要。 耐震改修期間は施設が利用できない。そのため、改修期間の代替場所での事業実施は、駐車場・交通手段の確保が必要。 改修なので今後の利用年数は大きく延びない。
機 能 (設備・規模)	<ul style="list-style-type: none"> 現在の利用、特別な部屋（調理室、音楽室、和室）の利用はそのまま利用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ホールの定員は690人と大きいままであり、あまり活用していないところがある箇所がそのまま残る。また、ホールの音響設備や舞台装置、座席の改修検討も必要。 特別な部屋の機能改修費用は必要。

② 減築・耐震改修

＜建物の考え方＞

※ 現在の建物を、維持管理経費を削減することを第一目標とし、可能な限り小さく（減築）し、使用する範囲で耐震改修を行う。

※ 具体的には、利用頻度が多くなく、耐震診断結果も数値がよくないホールは取り除く。

	利 点	留意すべき事項
施 設	<ul style="list-style-type: none"> 耐震基準は満たす。 建物は小さくなるので維持管理経費は減る。 	<ul style="list-style-type: none"> 耐震改修費用が必要。特に減築については撤去する部分の手当、費用も必要。 耐震改修期間は施設が利用できない。 改修なので今後の利用年数は大きく延びない。
機 能 (設備・規模)	<ul style="list-style-type: none"> 現在の特別な部屋の利用はそのまま利用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別な部屋の機能改修費用は必要。 ホール（690人）がなくなるので主に町主催の事業について代替実施の調整が必要。特に文化祭は検討課題。また、外部利用者への対応も必要。加えて、代替場所の駐車場・交通手段の確保。

③ 適切な規模で建替え

<建物の考え方>

- ※ 現在の建物を解体し、適切な規模・性能を有する新しい建物を建築する。
- ※ 具体的には、ホール定員は縮小（400人規模へ）し、音楽室・料理実習室などの必要な機能に限定する。

	利 点	留意すべき事項
施 設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耐震基準は満たす。 ・ 建物は小さくなるので維持管理経費は減る。 ・ 今の駐車場用地に新築し、その後解体すれば、比較的スムーズな移行が可能。解体費用も財政的に数年先という選択肢が可能。ただし、新築・解体完了まで駐車場は狭くなる。 ・ 施設を新しくするため、長期の運営が可能となり、複合化や官民連携など利用者を増やす積極的な取組、幅広い設計が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 解体費用、新築費用が必要。 ・ 今の場所に新築するのであれば、解体、新築期間は施設が利用できない。
機 能 (設備・規模)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な規模、今の需要に応じた性能になる。現在の特別な部屋の利用は、より適切な設備のもので利用できる。 	

④ 施設廃止（機能移転）

<建物の考え方>

- ※ 現在の建物は解体し、必要な機能は他の施設へ移転する。

	利 点	留意すべき事項
施 設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 費用は解体費用のみ。 ・ 解体後の空いた土地の新しい利用を考えられる。 ・ 建物としての維持管理経費はなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場所が変わることで住民が不便になる可能性がある。 ・ 中央公民館の位置付け（生涯学習の拠点）の整理が必要。
機 能 (設備・規模)		<ul style="list-style-type: none"> ・ ホール（690人）がなくなるので主に町主催の事業について代替実施の調整が必要。特に文化祭は検討課題。また、外部利用者への対応も必要。加えて、代替場所の駐車場・交通手段の確保。 ・ 他の施設へ移転が必要な機能は、施設改修費用が必要。

3 現在のホール利用について

中央公民館のホールについては、平成 25 年度に実施された耐震診断※調査により、 I_s 値（構造耐震指標）が最も低いところで 0.22（ホール 3 階）という結果です。この数値は、国土交通省が示す I_s 値※の目安、地震に対して倒壊または崩壊する危険性が高いとされる 0.3 未満の結果です。（ホール以外では 1 階で最低値 0.30、2 階で最低値 0.49。）

耐震診断を行った後、現在まで、問題なく利用されているところですが、地震、自然災害については、いつ何時発生するかわからないものです。近隣市町においては、耐震診断状況から公民館を閉鎖・休館としているところもあります。本町の中央公民館ホールについても、それほど稼働率は高くはありませんが、一度に利用される人数が多い場所です。

● ホールの使用停止について

中央公民館の建物全体としてあり方検討を行っている段階ですが、利用者の安全・安心への早期の対応として、国土交通省が示す目安から危険性が高いとされる数値を示し、また、雨漏りなど老朽化も進んでいるホールについては、行政の判断にもよりますが、一定の周知期間を設けたうえで使用停止を行うなど、その利用の是非について、今後の建物のあり方が見出されるまでの間、あり方検討とは別に考え方を整理する必要があると考えます。

※ 中央公民館の耐震診断調査結果（平成 25 年度）

I_s 値 最小値 0.22（ホール 3 階）

（1 階 0.30～0.43、2 階 0.49～1.19、3 階 0.22～1.31）

※ I_s 値の目安（平成 18 年国土交通省告示）

$I_s < 0.30$: 地震に対して倒壊または崩壊する危険性が高い

$0.30 \leq I_s < 0.60$: 地震に対して倒壊または崩壊する危険性がある

$0.60 \leq I_s$: 地震に対して倒壊または崩壊する危険性が低い

※ 耐震診断

新耐震基準施行以前の建物について、地震に対する安全性を構造力学上診断するもの。新耐震基準は、昭和 56 年の建築基準法の改正により施行された耐震基準。新耐震基準の建物は、震度 6 強程度の地震でも建物が倒壊しない耐震性能を有している。昭和 56 年 6 月 1 日以降に建築確認を受けた建物に対して新耐震基準が適用。

※ I_s 値（構造耐震指標）

耐震診断により、建物の耐震性能を表す指標。地震力に対する建物の強度と粘り強さを求める。

I_s 値が大きいほど耐震性能が高くなり、値が 0.6 以上で耐震性能を満たす。

4 今後に向けて（提言）

以上のとおり、当委員会では、あり方検討を進めるに当たって、まずは現在の中央公民館の利用状況を確認し、中央公民館が利用できない状況における代替施設の検討や、住民と利用者（文化サークル）の利用状況や意向を把握するためのアンケート調査などを実施しました。

そして、それら現状を整理する中で今後も必要と考えられる設備・規模などの機能について検討し、中央公民館の建物のあり方については、4通りの考え方をもって整理することとしました。

4通りの建物の考え方については、総務省試算単価を用いた建替え費用などから比較検討を試みたものの、それぞれの整備費用は機能（設備・規模）を詳細に決定した上でなければ算出できないこと、また、最終的なあり方は行政（町）が判断すべきと考えられることから、当委員会では、それら考え方の利点と留意すべき事項について整理することとしました。

● 施設整備費用・ライフサイクルコストの比較について

今後については、当委員会が整理した建物の考え方の利点と留意すべき事項の精度をあげるため、各考え方の建物（施設）を設計し、その整備費用を算定していくことが必要です。また、その設計を行うに当たっては、整理した機能（設備・規模）について、実際に事業を実施する町・教育委員会や利用者（文化サークル）等によって精査していただくことが必要とも考えます。

そして、施設整備費用と併せて、今後の維持管理経費を含めたライフサイクルコスト^{*}を算定し、精度を上げた利点と留意すべき事項により比較検討することで、持続可能な公共サービスの実現のため、町公共施設等総合管理計画^{*}に基づく町の財政状況や人口規模に応じたあり方の判断をしていくことが必要と考えます。

● 文化・生涯学習の展望について

中央公民館の役割については、社会教育法や町生涯学習推進計画^{*}において位置付けられているところですが、現在の利用・活用状況は、施設の利用率から見てあまり十分な状況にあるとは言えません。公の施設として、多大な維持管理経費がかかっている中、各種教室や講座をはじめ、施設貸与による利用率を上げるとともに、使用料収入を確保していくことが喫緊の課題です。

また、今後の久御山町の文化を創出していくという視点からは、若い世代が魅力を感じる講座や、活気ある生涯学習環境をつくっていくことも必要です。住民アンケートや文化サークルアンケートでは、生涯学習にとらわれない子育て支援や高齢者介護予防などの教室・講座について、特に重要という意見も多くなっています。しかし、町内には、子育て支援センターや老人福祉センター、健康センター等の施設もあります。人口減少・少子高齢化社会が進み、住民意識の多様化や生涯学習への関心もうすれる中、さまざまな世代が交流し、豊かな地域づくりにつながるように、町全体で、複合的な視点で施策

を展開することも必要と考えます。さらには、ものづくりのまち久御山として、町内ではたらく人材を育てていくような視点も考えられます。

町におかれましては、どの建物の考え方を取るに当たっても、住民全体の理解を得ることはもちろんですが、文化サークルをはじめ、現在、中央公民館を利用されている方々の理解と、今後の利用・活動継続に向けた安心感に配慮するとともに、ホールを使用停止したとしても中央公民館全体の安全・安心につながるものではないことから、早期に今後の方針決定に向けた取組を進められること、また、施設整備費用及びライフサイクルコストの比較と、文化・生涯学習にかかる展望を踏まえた上で、中央公民館のあり方について方針決定されることを望みます。

-
- ※ ライフサイクルコスト… 建物について、設計から建築、運用を経て、修繕更新、解体までを建物の生涯と捉え、その全期間に要する費用のこと。主に、初期建築のインシヤルコストと、建物の運用にかかるエネルギー費、清掃、警備、管理や、経年劣化等による修繕改修といった維持管理経費(ランニングコスト)からなる。
 - ※ 公共施設等総合管理計画… 地方公共団体においては、厳しい財政状況、人口減少等のなか、公共施設等の老朽化対策が大きな課題となっている。そこで、公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うとともに、財政負担の軽減・平準化を図り、公共施設等の最適な配置を実現するために策定する計画。
 - ※ 生涯学習推進計画… 生涯学習・生涯スポーツ振興施策の基本的な方向性と目標を示した指針。町の計画では、「生涯学習で人がつながる温かいまち くみやまキャンパスタウンの深化を目指して」をテーマにしている。

参考 住民アンケート・文化サークルアンケート結果にみる方向性

当委員会では、中央公民館のあり方検討を行うに当たっての参考とするため、住民と利用者（文化サークル）の意向を把握することとし、平成 29 年 11 月にそれぞれアンケート調査を実施しました。（実施主体は町・教育委員会）

	配布数	有効回収数	有効回収率
住民アンケート	1,300	454	34.9%
文化サークルアンケート	約 300	150	約 50%

以下に参考とした主な設問の結果を記載します。（詳細は別添）

（1）中央公民館を今後利用する際、特に重要と思うこと（2つまで）（問9）

ア 住民アンケート（年齢別）

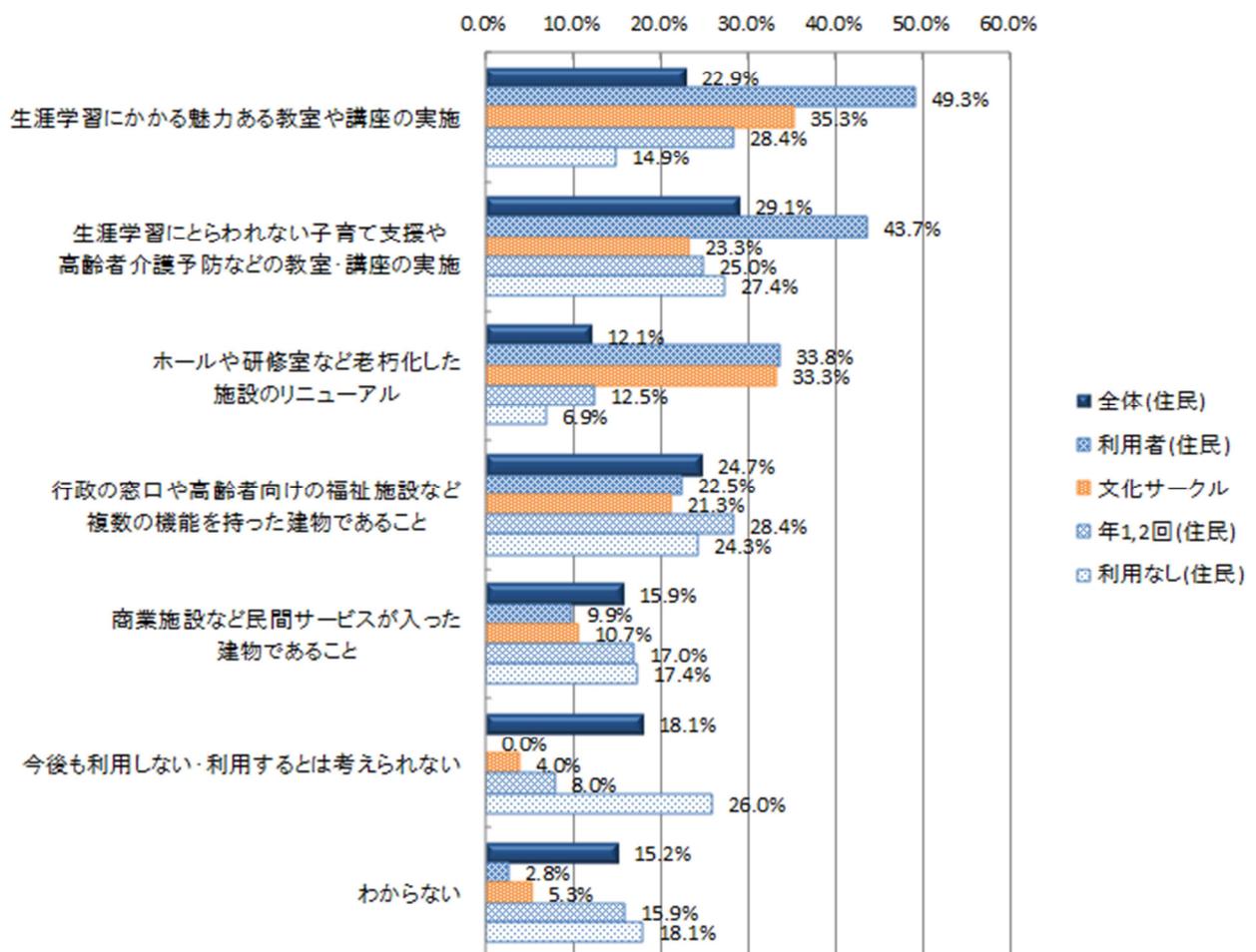
	住民アンケート				
	全体	18～39歳	40～59歳	60～69歳	70歳以上
生涯学習にかかる魅力ある教室や講座の実施	22.9%	24.3%	21.9%	25.5%	21.5%
生涯学習にとらわれない子育て支援や高齢者介護予防などの教室・講座の実施	29.1%	33.8%	35.1%	34.3%	19.6%
ホールや研修室など老朽化した施設のリニューアル	12.1%	13.5%	13.2%	8.8%	12.9%
行政の窓口や高齢者向けの福祉施設など、複数の機能を持った建物であること	24.7%	18.9%	23.7%	26.5%	27.0%
商業施設など民間サービスが入った建物であること	15.9%	23.0%	16.7%	19.6%	9.8%
今後も利用しない・利用するとは考えられない	18.1%	14.9%	19.3%	16.7%	19.6%
わからない	15.2%	16.2%	11.4%	12.7%	18.4%

イ 住民アンケート（利用の有無別）、文化サークルアンケート

	住民アンケート				文化サークル
	全体	利用者	年1,2回	利用なし	
生涯学習にかかる魅力ある教室や講座の実施	22.9%	49.3%	28.4%	14.9%	35.3%
生涯学習にとらわれない子育て支援や高齢者介護予防などの教室・講座の実施	29.1%	43.7%	25.0%	27.4%	23.3%
ホールや研修室など老朽化した施設のリニューアル	12.1%	33.8%	12.5%	6.9%	33.3%
行政の窓口や高齢者向けの福祉施設など複数の機能を持った建物であること	24.7%	22.5%	28.4%	24.3%	21.3%
商業施設など民間サービスが入った建物であること	15.9%	9.9%	17.0%	17.4%	10.7%
今後も利用しない・利用するとは考えられない	18.1%	0.0%	8.0%	26.0%	4.0%
わからない	15.2%	2.8%	15.9%	18.1%	5.3%

- 中央公民館を今後利用する際に、特に重要と思うことについては、住民アンケート全体結果では、際だった多さの回答はなく、最も多いもので「生涯学習にとられない子育て支援や高齢者介護予防などの教室・講座の実施」が29.1%です。
- 住民アンケートの年齢別では、「18～39歳」「40～59歳」「60～69歳」で「生涯学習にとられない子育て支援や高齢者介護予防などの教室・講座の実施」が最も多いです。
- 住民アンケートの「利用者」と文化サークルとも「生涯学習にかかる魅力ある教室や講座の実施」が最も多いです。
- 住民アンケートの「年1、2回」「利用なし」では「商業施設など民間サービスが入った建物であること」や「わからない」が比較的多く、「利用なし」では「今後も利用しない・利用するとは考えられない」も26.0%と多いです。
- 「生涯学習にとられない子育て支援や高齢者介護予防などの教室・講座の実施」については、住民アンケートの「利用者」では43.7%と多いですが、文化サークルでは23.3%と比較的少なくなっています。
- そのほか「ホールや研修室など老朽化した施設のリニューアル」や「行政の窓口や高齢者向けの福祉施設など複数の機能を持った建物であること」など、住民アンケートの利用者と文化サークルの結果は、概ね同じ傾向（数値）を示しています。

《イ 住民アンケート（利用の有無別）、文化サークル グラフ》



(2) 将来の生涯学習環境を見据えて、どのような公民館の建物が望ましいか (問 10)

ア 住民アンケート (年齢別)

	住民アンケート				
	全体	18~39歳	40~59歳	60~69歳	70歳以上
①今ある利用を変えるべきではなく、今の建物の耐震化・老朽化対策を行う (維持管理経費は今のまま)	8.8%	8.1%	7.9%	8.8%	9.8%
②今ある利用についてできる限り現状を維持し、最低限の大きさの建物にして、耐震化・老朽化対策を行う (維持管理経費はややさがる)	15.6%	14.9%	11.4%	22.5%	14.7%
③今ある利用について必要な大きさや性能を検討し、適切な規模と性能をもつ建物として建て替えを行う (維持管理経費はさがる)	26.4%	43.2%	28.9%	25.5%	17.8%
④今ある利用についてできる限り他のホール・会議室で実施し、将来的には中央公民館を閉鎖することもやむを得ない (維持管理経費はなくなる)	33.9%	28.4%	40.4%	34.3%	31.9%
わからない	14.3%	5.4%	11.4%	8.8%	23.3%

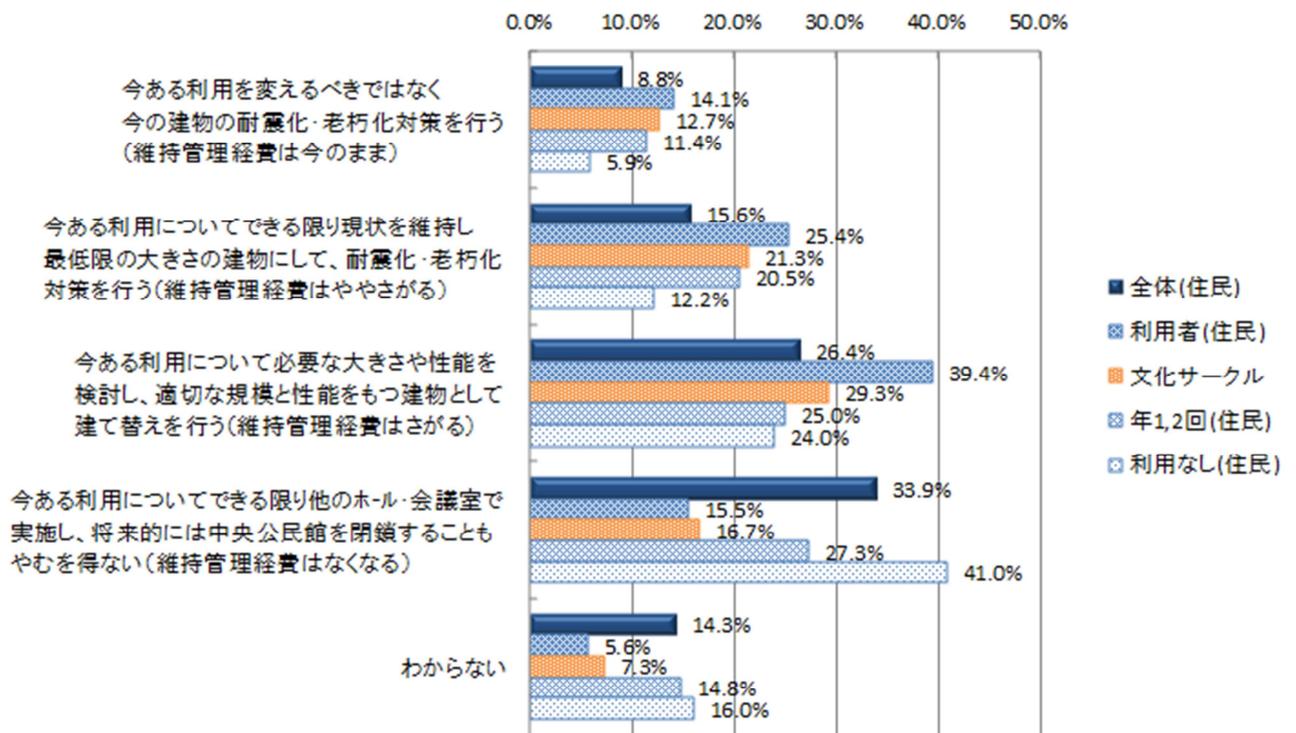
イ 住民アンケート (利用の有無別)、文化サークルアンケート

	住民アンケート				文化サークル
	全体	利用者	年 1,2 回	利用なし	
①今ある利用を変えるべきではなく今の建物の耐震化・老朽化対策を行う (維持管理経費は今のまま)	8.8%	14.1%	11.4%	5.9%	12.7%
②今ある利用についてできる限り現状を維持し最低限の大きさの建物にして、耐震化・老朽化対策を行う (維持管理経費はややさがる)	15.6%	25.4%	20.5%	12.2%	21.3%
③今ある利用について必要な大きさや性能を検討し、適切な規模と性能をもつ建物として建て替えを行う (維持管理経費はさがる)	26.4%	39.4%	25.0%	24.0%	29.3%
④今ある利用についてできる限り他のホール・会議室で実施し、将来的には中央公民館を閉鎖することもやむを得ない (維持管理経費はなくなる)	33.9%	15.5%	27.3%	41.0%	16.7%
わからない	14.3%	5.6%	14.8%	16.0%	7.3%

- 町の将来の生涯学習環境を見据えて、どのような公民館の建物が望ましいかについては、住民アンケート全体結果では、「今ある利用についてできる限り他のホール・会議室で実施し、将来的には中央公民館を閉鎖することもやむを得ない (維持管理経費はなくなる)」が 33.9% と、最も多くなっています。
- 次に「今ある利用について必要な大きさや性能を検討し、適切な規模と性能をもつ建物として建て替えを行う (維持管理経費はさがる)」が 26.4%、「今ある利用についてできる限り現状を維持し、最低限の大きさの建物にして、耐震化・老朽化対策を行う (維持管理経費はややさがる)」が 15.6% となっています。この 2 つの回答については、「最低限の大きさの建物にして」や「適切な規模と性能をもつ建物として」が共通していますが、この視点から見た場合、合計 42.0% になります。

- 住民アンケートの年齢別では、「18～39歳」では「適切な規模と性能をもつ建物として建て替えを行う」が43.2%と最も多く、「40～59歳」「60～69歳」「70歳以上」では「将来的には閉鎖することもやむを得ない」が最も多くなっています。
- 住民アンケートの「利用者」、文化サークルとも「今ある利用について必要な大きさや性能を検討し、適切な規模と性能をもつ建物として建て替えを行う（維持管理経費はさがる）」が最も多いです。
- すべての意見について、住民アンケートの利用者と文化サークルの結果は、概ね同じ傾向（数値）を示しています。

《イ 住民アンケート（利用の有無別）、文化サークル グラフ》



久御山町中央公民館あり方検討委員会 委員名簿

役 職	氏 名	備 考
委員長	藤木 秀明	大和大学 経済経営学科 講師
職務代理	樋口 房次	久御山町行政改革推進委員（平成 28 年度） 久御山町青少年健全育成協議会 会長
委員	西村 初江	久御山町社会教育委員
委員	長谷川 徳子	久御山町文化サークル連絡協議会運営委員
委員	金尾 伊織	京都工芸繊維大学 工芸科学研究科 教授
委員	辻 善晴	久御山町行政改革推進委員（平成 28 年度） ㈱ユー・エム・アイ 専務取締役
委員	中村 繁男	久御山町 副町長

順不同 敬称略

久御山町中央公民館あり方検討委員会 審議経過

第 1 回委員会

日時： 平成 29 年 9 月 22 日（金） 午後 2 時～

場所： 中央公民館 2 階 会議室 1 号

内容：

- 委嘱書交付
- 委員長及び職務代理者の選出
- 久御山町中央公民館あり方検討の実施について
 - (1) 行政改革等における中央公民館の位置づけ
 - (2) 中央公民館の位置づけ・概要
 - (3) 中央公民館の耐震診断結果概要
 - (4) 庁内検討部会において検討した事項
 - (5) 久御山町公共施設等総合管理計画について
 - (6) 中央公民館の役割
- 審議スケジュール（案）について

第2回委員会

日時： 平成29年10月16日（月） 午後3時30分～

場所： 議会棟4階 特別会議室

内容：

- 住民意向の把握について
- 改修・建て替えの方向性について（金尾委員から、構造的見地からの意見）

第3回委員会

日時： 平成29年12月8日（金） 午後3時～

場所： 議会棟4階 特別会議室

内容：

- 住民等アンケートの結果（速報）について
- アンケート結果をふまえた方向性の検討

第4回委員会

日時： 平成29年12月25日（月） 午後3時～

場所： 議会棟4階 特別会議室

内容：

- 方向性の検討（公民館会議室等の利用状況について）

第5回委員会

日時： 平成30年1月25日（木） 午後1時30分～

場所： 議会棟4階 特別会議室

内容：

- 必要とされる施設の機能・規模等について
- 取りまとめに向けて

第6回委員会

日時： 平成30年2月21日（水） 午後3時～

場所： 庁舎5階 コンベンションホール

内容：

- 久御山町中央公民館あり方検討委員会 意見書について

委員会意見書提出

日時： 平成30年3月7日（水） 午後3時30分～